

町内循環バスを廃止するという計画案を見直し、福祉健康・多世代交流複合施設を拠点として町内循環バスを循環させるなど、下記のとおり見直しを行いました。

## 北部地域の新拠点との連絡

泉井地区活性化事業（活性化施設等）や上熊井活性化事業（直売所等）などの**まちづくり事業と一体となった交通体系を整備**します。

## 大橋ターミナルの整備(民間バスとの連携)

大橋では、川越観光自動車の転回所となっている敷地を活用し、**バスターミナル(待合所、バス運行業務関連施設等)を整備**します。これにより、これまで休憩のために回送していた大橋線の一部の便を見直し、運行便数の増便を検討します。

## 町内循環バスを活用した町内拠点の連絡



新たに整備された福祉健康・多世代交流複合施設、鳩山ニュータウン、今宿、町役場周辺について、利用の少ない停留所を見直し、**町内循環バスにより両周りでアクセス可能**とします。



## 今宿ターミナル

バス路線再編の見直すことで運行車両に変更が生じないことから、新たな整備は不要となります。既存のおしゃもじ待合所を活用します。



## 再編後は利便性が維持・向上します

### 【町民の利便性】

- ◆今宿地域～ニュータウン地域間の利便性が向上します。
- ◆町内を乗り継ぎなしで移動できます。
- ◆ニュータウン内の主な通りを運行することにより、バス停まで遠くなる人を減らすことができます。

### 【来訪者の利便性】

- ◆路線バスとの乗り継ぎにより、町内拠点施設や鉄道駅にアクセスしやすくなります。

### 【運行経費】

- ◆町内循環バスを活用することで、経費を約180万円削減できます。
- ◆町営路線バス南部線を新設せず、町内循環バスの運行を継続することにより、引き続き町内を100円で移動できます。

## 西側方面鉄道駅(越生駅)への連絡

新たに整備される**越生駅東口駅前広場へ町営路線バスを延伸**し、西側の鉄道駅へ連絡し、直接西部方面へ公共交通でアクセス可能とします。ただし、大橋ターミナルに効率的なバス運行を可能とするバス運行業務関連施設が整備された後に実施します。

※越生駅東口駅前広場が整備されても、大橋ターミナルにてバス運行業務関連施設が整備されなければ、運行便数が減るなど、非効率な運行となり高コストとなります。



越生駅東口完成イメージ

## その他関連事業の進捗状況

次の3つの事業については、整備に関わる状況が変化したことから、今後の検討課題とします。

### ◆運賃の弾力化

当初、民間路線バスの運賃(対キロ区間運賃制)と町内循環バス(100円の均一運賃)について、民間路線バスの町内区間利用は100円とする運賃体系の導入を目指していました。

しかし、町内循環バスを継続して運行し、町内拠点を連絡することにより、従来どおりの運賃(100円)を維持します。

### ◆民間路線バスの終バス時刻延長(社会実験)及び大橋線の延伸

当初、民間路線バス大橋線の坂戸駅発最終便(21:56)を鉄道の到着時間に合わせ約30分延長する社会実験(1年間)を実施し、その実施結果を踏まえ、需要・採算性等を評価し、本格実施の可否を決定することとしていました。

しかし、バス運行経費(バス乗務員の人件費)の高騰から、実現には一層のコスト増となること、さらに乗務員不足により運行体制の懸念も生じているため、今後の検討課題とします。

また、大橋線の福祉健康・多世代交流複合施設への延伸は、町内循環バスで対応します。

### ◆ピオニウォーク線への乗り継ぎ利用促進

当初、鳩山町方面の路線バス利用者が高坂駅でバスに乗り継いでピオニウォーク線を利用する場合には、「高坂駅～ピオニウォーク間 往復100円」の利用券を導入する予定でした。

しかし、町営路線バスの起終点が高坂駅東口から高坂駅西口となり、町営路線バスからピオニウォーク行きのバスに乗り継ぐには、西口から東口まで高架の自由通路によって横断することとなりました。このため、乗り継ぎニーズが当初計画時とは異なっていると考えられ、今後、ワークショップやニーズ調査実施等により、必要性などを再検討します。